11月2日(金曜日)

<u>11月2日(金曜日)行動計画</u>　正味歩行時間…7:35/9:12 (1.21 倍)

/6:38 玉置神社駐車場テント場/0:15⇒6:30/6:53 玉置神社発 0:30/0:27⇒7:10/7:23 玉置辻 1:00/1:21⇒8:30/8:44 大平多山分岐 0:30/0:31⇒9:10/9:43 大森山三角点 0:35/0:32⇒9:55/10:15 切畑辻 0:35/0:48⇒10:40/11:42 五大尊岳 0:55/1:00⇒11:50/12:42 六道ノ辻 0:20/0:25⇒12:15/13:25 大黒天神岳 1:10/1:00⇒13:40/15:07 吹越権現 0:30/0:50⇒14:15/15:57 吹越峠 0:25/0:30⇒14:45/16:32 七越峰 0:35/0:54⇒15:20/17:26 備崎 0:35/0:32⇒16:00/17:58 熊野本宮大社着 16:45/18:56 発(龍神バス)～17:09/19:09 湯の峰温泉・よしのや着泊

6:38 玉置神社駐車場テント場発

　今日の行程は、神社発が 6:30 の計画でテンバと神社との距離を加えると 8 時間ほどの長丁場なので、早めに出発したいと、薄暗い内からテントを撤収し始めた。 ところが、硬い地面に打ち込んだペグが抜けない。 手持ちの小型スコップで、ペグが埋まっている周りの土を掘り起こしてからやっと抜く。 1 本数分と、時間がかかる。これを 12 本。30 分は余計にかかってしまった。 フライシートは若干濡れているようだったが、重さの増加は感じられない。

　出発前にトイレに行った。 駐車場からは護摩壇山から果無山脈の西部まで、北西から南西方面の山が連なって朝日に映えて輝いていた。

6:41 玉置神社駐車場

6:33(出発前)玉置神社駐車場からの展望_パノラマ

6:53 玉置神社発(0:30/0:27⇒玉置辻)

　昨日と違う道で、玉置神社参道鳥居から下り、玉置神社に参拝。 正面鳥居から本宮辻方面に狭い道を下り始める。 道には次々と倒木が横たわっている。 落ちた枝も積み重なって歩きづらかった。

6:45 玉置神社参道鳥居

6:53 玉置神社正面鳥居

6:53 玉置神社本社(社殿)

6:53 玉置神社清め場

6:53 本宮辻(玉置辻)分岐

7:00 倒木

7:20 玉置辻着(1:00/1:21⇒大平多山分岐)7:23 発

玉置辻には、昨日玉置神社に向けて南下し玉置神社へ 4.4km の標識付近にあったのと同じ「世界遺産　大峯奥駈道」の大きな案内板が設置されていた。 現在地の位置こそ違うが、説明文などは同じだった。 この先林道と奥駈道が交差し、世界遺産の道標が、林道から細い奥駈道に導いていく。

7:20 大峯奥掛道解説板

7:23 玉置辻鳥居

7:32 林道分岐

7:46 大森山 2km 玉置山 2.8km 標識

7:51 大森山 1.9km 玉置山 2.9km 標識

7:56 水呑金剛分岐

7:46 大森山 2km 玉置山 2.8km 標識

この標識付近から大森山への今日最長の登りが始まった。 ピークは多いが中々山頂には到達しなかった。

8:36 大森山 Xkm 標識

8:49 大森山 0.5km 標識

8:44 大平多山分岐(0:30/0:31⇒大森山三角点)

9:07 大森山着 9:35 発
　長い登りの後山頂到着。 大休止。 LINE 報告。 ポケモン GO は、玉置神社周りで沢山出現したポケストップやジムは、もう現れないようだ。 これからは、明確な地点が少ないので、GPS による「スーパー地形」が表示する現在地が、行程判断の貴重な材料になりそうだ。

8:49 大森山山頂付近展望

9:07 大森山山頂

9:14 大森山山頂

9:43 大森山三角点着(0:35/0:32⇒切畑辻)
　ここから 1,000M の長い下りが始まる。 下りの途中に何カ所も登り返すピークがある。 下りは、脚に負担があるので、苦労しそうだ。

10:09 篠尾辻(岸ノ宿跡)

10:15 切畑辻(0:35/0:48⇒五大尊岳)
　この辻で、奈良県十津川村を離れ、和歌山県に入る。 田辺市と新宮市の境界尾根を歩く。

10:21 ピーク 853M 着 10:28 発

10:54 五大尊岳(795m 北峰)着 11:13 発
　小さく急峻なピークをいくつか越えて、五大尊岳の標識があり、不動明王の石像のある山頂についた。

10:57 五大尊岳・北峰

12:01 ミヤマママコナ

12:14 十津川・熊野川遠望

11:29 五大尊岳(南峰)着(0:55/1:00⇒六道ノ辻)11:42 発
　昨日玉置山山頂で会った夫婦二人の登山者に再会。 山頂付近に座って休んでいた。 今日初めての人との出会いだ。 山頂表示はないが、ここが五大尊岳だと言う。 私が山頂だと思ったのは北峰、こちらは南峰で、地図に示されている五大尊岳はこちらの南峰だそうだ。 GPSで確認しているので、間違いないとのこと。 ガーミン製らしい GPS 器を持っていたので間違いなさそうだ。 私もスマホのGPS「スーパー地形」で確認しようとしたが、交信不能で、地図が取り込まれないため確認できなかった。 この地図を本器に常時持っているか、その都度取り込むかの差だと感じた。 帰宅後確認した。 おっしゃる通りだった。 ここから急斜面の下りで足への衝撃強し。
　尚、ご主人は「二人の山旅」の HP を作成しているとのことで、帰宅後調べたら以下左の通り確かにあった。
http://www.geocities.jp/yamanikki1/181102godaison.html　　https://blogs.yahoo.co.jp/yamatabi5963
関西百名山だけかと思ったが、すでに日本三百名山は完登しているようで、すごい実力と経験の持ち主のようだ。
さらに上記右のブログも開設しており、両者ともにかなり几帳面に作成している。 性格が伺える。
現在ガン治療中とも語っていたが、その辺のことも記載されていた。

12:42 六道ノ辻着（0:20/0:25⇒大黒天神岳）
　大森山山頂を最後に世界遺産の「歴史の道」の道標が出現しない。 熊野本宮大社までの距離が記載されていたので、進んだ距離確認に最適だったのだが…。 これ以降一切現れず。 日本語が読めない外国人などは位置確認が難しかったのではないかと、余計な心配をする。 ピークで休みたかったが、この辻の先で早い休憩。

12:42 ツルリンドウ 2 輪

12:45 ツルリンドウ 4 輪

13:25 大黒天神岳

12:44 金剛多和ノ宿跡着 13:02 発

13:25 大黒天神岳（1:10/1:30⇒吹越権現）

14:34 宝経(印)塔着 14:39 発
(参考) 宝経印塔 by ウィキペディア　 **宝篋印塔**（ほうきょういんとう）は、墓塔・供養塔などに使われる仏塔の一種である。 五輪塔とともに、石造の遺品が多い。

14:40 山在峠

14:35 宝経塔

14:59 吹越山

15:07 吹越権現（0:30/0:50⇒吹越峠）

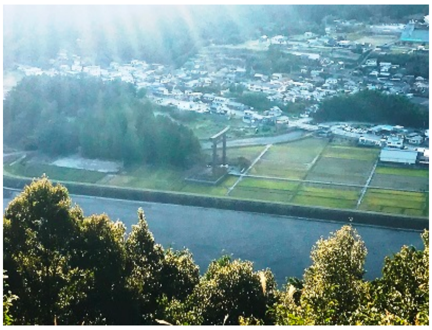
15:15 十津川遠望

15:56 吹越峠

15:57 吹越峠（0:25/0:30⇒七越峰）

16:06 展望台着 16:11 発
芝生にベンチが3個配置された前面が開けて川と街並みが良く見える場所に着いた。 地図上の展望台らしい。 街並みをよく見ると川沿い位に見覚えがある大きな鳥居が建っている。 熊野本宮大社の旧敷地だ。 洪水で本殿が流され、その後高台に場所を変えて本殿が建てられたとのことだった。 大鳥居は昔の状態を保って昔からの位置に残されているようだ。 眺めながら LINE 報告。 まだ太陽は出ているが、河原まで 1 時間は必要だろう。 明るい内に降りられるかやや心配。 先を急いで、七越峰手前の広場に出ると、大型カメラを担いだ人を含め4人人達に遭遇。 何か探しているようだ。 景色の良い場所を通って来たかと尋ねられ、「大鳥居が良く見える展望地があった。」 と答えると、そこに行ってみようと、車に乗った。 どちらの方かと聞くと、NHK の者だと紅一点の女性が答え、急いで行ってしまった。 いつ放送するのかなど質問したかったが…。

16:07 展望台


16:08 展望台から大鳥居アップ

16:23 七越峰広場 NHK の取材

16:32 七越峰（0:35/0:54⇒備崎）
七越峰を越えて下り始めるとスマホの警報音。「紀伊水道で地震」の情報だ。 紀伊半島は現在地の西隣なので、少し構えて振動に備えたが、揺れは来なかった。 松さんから LINE で大丈夫かの連絡有、揺れ無と回答。
岬突端のピークのような丘を越え下り始めると林の中は、薄暗くなり足元が見えづらくなったので、ヘッドライトを点灯する。 大きな石がごろごろしているような下り坂で、暗いので慎重に下る。 備崎経塚群の説明版が坂の途中にあった。 やがて河原の細い道路に出る。

16:27 大峯奥駈道説明板

16:32 七越峰鳥居

16:54 大峯奥駈道説明板

16:55 大社へ 2.2km 標識

17:20 備崎経塚群説明板

17:32 大峯奥駈道説明板

17:26 備崎（そなえざき、0:35/0:32⇒熊野本宮大社）

世界遺産　史跡　**備崎経塚群**
　経塚は、平安時代後期に広まった末法思想の影響から釈迦入滅の 56 億 7 千万年後といわれる弥勒仏の出現まで貴重な経典や仏像を残す目的や、極楽浄土への往生現世利益を願って写経した経典等を納めるために造営されたと考えられている。
　備崎経塚群は、熊野本宮大社旧社他大斎原の熊野川を挟んだ対岸、七越峰から西に延びる尾根先端の北斜面に所在し、経塚が広範囲に分布している宗教関連遺跡である。
　平成 13 年度に実施された発掘調査によると、主要形態は他山を掘りくぼめて埋蔵スペースを造るもの、他山を深く掘り側壁に板石を並べ底部に投石を配置し函状にするもの、他山をほとんど掘らずに河原石などで天井まで積み上げてスペースを造るもの等がある。
　出土遺物は、経筒片(銅製・土師質製・瓦質製・陶質製・陶製)、外容器とされる甕(土師器・陶器)、壺(陶器)、土師器・杯、瓦器・皿、合子(陶器・磁器)、銅製仏像(薬師如来立像)、銅鏡、火打ち鎌など多数あり、平安時代末から鎌倉時代まで経塚信仰が営まれたことがわかる。
　周辺一帯には、露呈する大きな岩塊が点在していることから、備崎経塚群は自然崇拝を根源とした古代信仰の形態をうかがい知ることができる貴重な遺跡で、山頂側にある平坦地は「宿」のひとつ「備の宿」があったと推定されている。

　備崎から河原の細い道を歩くと、備崎橋に到着する。 橋の手前に大峯奥駈道の簡単な説明板があった。 橋を渡ると国道 168 号線に出た。 ヘッドライトの光を浴びながら国道を歩き、熊野本宮大社前のバス停に到着。

17:58 熊野本宮大社着
　宿泊地の湯の峰温泉に向かうバスの時刻は 18:58 で、まだ 1 時間ほど時間がある。 旅館は素泊まりなので、ここで夕食を取ろうとレストランを探すが、近くには見当たらない。 近くのパン屋さん「手作りのパン　マーブル」に入ってオヤジに尋ねたら数百メートル先にあるとのこと。 もうあまり歩きたくないなと思いながら店内を見渡すと、パンが沢山並んでおり、コーヒーを飲みながら食べるスペースがあったので、ここでパンを食べ夕食にすることにした。 同じ年代のオヤジさんといろいろ世間話をしながら、無料のおかわりコーヒーを頂きながら、バス発車１０分前までゆっくりできた。
　バス停では日本人が一人バス待ち。 そのうち言葉からドイツ系と思われる白人が 4 人ほどバス待ちに加わる。

手作りのパン　マーブル（田辺商工会）

湯の峰温泉（熊野観光協会）

18:58　バス乗車

19:09　湯の峰温泉着
　旅館の部屋に案内され、ザックを置き靴下を脱いで、びっくり。 両足共に、親指の内側に豆ができ、つぶれている。 部屋案内で一緒に居た主人から、フロントで絆創膏を貰って下さいと言われる。 フロントに行くとここのお湯は傷に効くと言われたので、入浴後絆創膏をはる。 数日で傷口は癒えた。 お湯の効用かな。
　尚、湯の峰温泉は、1800 年の歴史があり、温泉としては世界で唯一世界遺産に登録されているそうだ。